

## ねらい

- 特許権の権利内容と取得に至るまでの手続きを理解するとともに、特許明細書を作成する実践的な能力を習得することをねらいとします。
  - 企業経営における特許の位置づけを理解し、「まず特許を出願すること」の重要性を認識します。
  - 特許明細書(特に、「特許請求の範囲」)を作成する際のポイントを理解します。

## 研修形式

- 講義 + グループ演習
  - 午前中に、特許や出願書類(特許明細書)に関する基本的な知識を学習した上で、午後は、講義と演習を通じて、「特許請求の範囲」を作成するスキルを身につけます。
  - 4～6人/組でグループ演習を行います。演習では、グループごとに、日用品(例 髭剃り)をサンプルとして「特許請求の範囲」を作成します。その際、先行事例との差異を明確にしながら、できるだけ広い範囲を権利化するように意識付けを行います。

# 特許入門 研修 プログラム

AM		PM	
時間	講義 / 演習	時間	講義 / 演習
9:00	<p><b>1. 特許権とは何か？</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>知的財産権 - 産業財産権(特許、実用新案、意匠、商標)</li> <li>方式主義と先願主義</li> <li>職務発明と自由発明</li> <li>特許化の3要件 新規性、進歩性、産業利用可能性</li> </ul> <p><b>2. 特許の取得手続き</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>国内特許の取得 出願→公開→審査→登録 拒絶とそれへの対応 国内優先権出願と分割出願</li> <li>海外特許の取得 パリ条約ルートとPCTルート PCT出願における優先権主張</li> </ul> <p><b>3. 特許明細書の理解</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>出願書類の構成 特許願、特許請求の範囲、明細書、図面、要約書</li> <li>明細書部分の構成 発明の名称、技術分野、背景技術(文献) 発明の開示(課題、手段、効果、最良の形態) 産業上の利用可能性、図面の簡単な説明</li> </ul>	13:00	<p><b>4. 特許明細書の作成(1) - アイデアを記述する</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>物の発明の類型 構成要素と特性(機能、形状)、 階層構造、接合条件</li> <li>方法の発明の類型 処理の順序</li> </ul> <p>■ <b>グループ演習</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ハイグレードな日用品(例 髭剃り)をサンプルとして、ローグレードな製品との対比で「特許請求の範囲」を作成する</li> </ul> <p><b>5. 特許明細書の作成(2) - 差異を明確化する</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>先行事例の調査 特許電子図書館</li> <li>新規性と進歩性の考慮</li> </ul> <p>■ <b>グループ演習</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>ミドルグレードな製品と対比し、差異が明確になるように「特許請求の範囲」を修正する</li> </ul> <p><b>6. 特許明細書の作成(3) - 範囲を広げる</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>一般概念化</li> <li>制約の除去</li> </ul> <p>■ <b>グループ演習</b></p> <ul style="list-style-type: none"> <li>権利範囲ができる限り大きくなるように「特許請求の範囲」を修正する。</li> </ul>
12:15		17:30	